

令和3年（2021年）3月定例会・一般質問

【本市におけるG I G Aスクール構想の実現について】 ・ 【同報無線と防災ラジオについて】

◆大川秀徳

1つ目の質問、本市におけるG I G Aスクール構想の実現について。

新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン授業が全国的に展開されるようになりました。大学では、ほとんどの授業がオンライン化されて、学生は自宅で授業を受けるようになりました。また、小中学校や高校においても、学校が臨時休校になって子供たちの学びが止まらないよう、家庭での学習を支援する取組が始まりました。万が一、再び臨時休校が起きた際に、即座にしっかりと対応できるように、G I G Aスクール構想の実現に向けての環境整備への動きが加速化し、本市においても他市町に遅れをとることなく整備を進めました。

令和3年4月より1人1台端末教育がスタートするに当たり、以下3点をお伺いします。

1点目、端末の整備の進捗状況はどうか。

2点目、通信ネットワーク環境整備の進捗状況はどうか。

3点目、G I G Aスクールサポーターの配置進捗状況はどうか。

2つ目の質問、同報無線と防災ラジオについて。

本市では、災害時などに市民等の皆さんに、災害や避難の情報を伝えるための重要な情報伝達手段の1つとして、市内全域87か所に設置した子局のスピーカーから放送が流れる同報無線を運用しています。災害時には、同報無線を使用した広報等が考えられ、ふだんから同報無線が聞こえづらい地区の方や、災害時の備えとして防災ラジオの販売もしています。

供用開始からの運用について、以下3点をお伺いします。

1点目、同報無線への苦情等はあるのか。

2点目、各地区の区長などによるコミュニティ放送とは、どのようなものを想定しているのか。

3点目、防災ラジオの販売実績は何個か。

◎教育部長

大川議員の1番目のご質問、G I G Aスクール構想の実現についてお答えさせていただきます。

まず、G I G Aスクール構想とは、令和元年12月に文部科学省が打ち出した計画で、「児童生徒1人1台端末は令和の学びのスタンダード」をスローガンに、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質、能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現することを目的としております。

また、平成28年に内閣府が第5期科学技術基本計画で制定したSociety5.0時代を生きる子供たちのために、ICTを基盤とした個別最適化された教育を全国の学校など、教育現場で持続的に実現するためのものでもあります。

このG I G Aスクール構想の実現に向けた取組は、児童生徒1人1台の端末整備と、校内の高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するものであります。そのうち、児童生徒1人1台の端末整備につきましては、令和5年度までに整備が達成できるよう計画しておりましたが、昨年4月7日に閣議決定がなされた新型コロナウイルス感染症緊急経済対

策において、端末の整備スケジュールを令和2年度までに前倒しすることが決まりました。

そこで、本市といたしましても、国の決定に沿ってスケジュールの前倒しを図り、本年度中に整備ができるよう準備を進めてまいりました。

さて、1点目のご質問、端末の整備の進捗状況についてでございますが、先ほども申し上げましたが、本年度中に児童生徒1人1台の端末整備ができるよう、国の補助事業、公立学校情報機器整備費補助金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、児童生徒の端末に加え、教員用の端末を含めて2月末をもって整備を完了いたしました。

次に、2点目のご質問、通信ネットワーク環境整備の進捗状況でございますが、まず整備の趣旨といたしましては、先ほど申し上げました児童生徒1人1台の端末環境において、支障なくICTを活用した学習活動ができるよう、高速大容量の通信ネットワーク環境を整備するものでございます。

工事内容といたしましては、普通教室や特別支援教室、屋内運動場を対象としたLAN配線整備と、無線アクセスポイント整備に加え、端末を充電、保管するための充電保管庫の整備となります。

整備の進捗状況につきましては、国の補助事業、公立学校情報通信ネットワーク環境施設整備費補助金を活用し、昨年9月下旬から学校での工事を始め、本年2月末をもって整備を完了いたしました。

最後に、3点目のご質問、GIGAスクールサポーターの配置の進捗状況でございますが、GIGAスクールサポーターとは、GIGAスクール構想の前倒しによって急速に進む学校のICT化の初期対応における教員などへの人的体制を支援するものでございます。

配置の進捗状況につきましては、国の補助事業、GIGAスクールサポーター配置支援事業を活用し、昨年11月から本年3月までの5か月間において、13校で2名配置しております。

配置方法といたしましては、1月当たり各校2日間程度訪問できるよう日程調整しており、GIGAスクールサポーターが学校を訪問する日は、終日その学校に滞在し対応することを基本としております。

GIGAスクールサポーターによる支援内容といたしましては、端末の納品ができていない昨年11月から12月においては、端末の使用マニュアルの作成や、各校における電子黒板などの既存ICT機器の利活用状況の把握、要望等の収集を行うとともに、各校の代表者向けに端末の操作研修会を行いました。

1月からは、端末が整備された学校において、各校で教員に対して操作等の研修会を行うとともに、授業準備における端末利用の支援や実際に端末を使った授業に参加して支援を行いました。

現在は、2月末をもって1人1台、端末整備や通信ネットワーク環境整備が完了したことに伴い、各校で端末を用いた授業が実施できるよう支援を進めているところでございます。

なお、GIGAスクールサポーターに対する学校現場の声を確認したところ、通常は教員自身で操作方法や使い方を一から調べて勉強しなければいけないところを、GIGAスクールサポーターがいることで、疑問点に対して速やかに回答が得られることで助かっているとの声が多く、高い評価を得ております。

いずれにしても、G I G Aスクール構想につきましては、今年度で環境整備が完了した状況でありますので、今後も他自治体の先進事例を参考にしながら、I C Tを有効に活用できるよう、学校現場と連携して対応してまいりたいと考えております。

◎総務部長

大川議員の2番目のご質問、同報無線と防災ラジオについてお答えさせていただきます。

まず、同報系防災行政無線とは、庁舎等の屋内に無線発信局の親局を設け、屋外に設置する拡声子局を通じて、災害時に市民の皆様へ一斉に情報伝達する無線であり、東日本大震災などの大災害におきましても、大変有効な情報伝達手段であることが証明されております。

本市では、平成29、30年度の2か年で整備を完了し、市内87か所に設置した屋外拡声子局と各公共施設、地区公会堂等をはじめとする100か所に防災ラジオを配置し、平成30年12月から本格運用を行っているところでございます。

放送内容としましては、機器のテストも兼ねて、毎日午後5時または6時にメロディの定時放送や、必要に応じて市からのお知らせ等を放送する行政告知放送、災害時や人命に関わるものなどについて放送する緊急放送、その他には緊急地震速報などの情報伝達訓練のためのテスト放送や、区長による地区行事等をお知らせするコミュニティ放送として活用しております。

それでは1点目のご質問、同報無線への苦情についてでございますが、市民の皆様からは、例えば、音が小さくて聞こえない、音が大きくてうるさい、声が反響して何を言っているか分からないなど、様々な苦情を頂いております。

中でも、家の中にいると聞こえないというご意見を一番多く頂いておりますが、屋外拡声子局による放送は、音声による情報伝達という性質上、風向きや天候、屋外拡声子局との距離や位置関係によって放送が聞き取りにくい場合がございます。そのため、屋内でも同報系防災行政無線の放送内容を聞くことができる防災ラジオの一般販売を令和元年度から実施しているところでございます。

また、全国一斉に行われる緊急地震速報やJアラートのテスト放送は、最大音量で放送されるため、事前に市広報や市ホームページ等で日時をお知らせしております。そのほか、放送内容をホームページでも確認できるサービスの提供や、聞き直しダイヤルの周知を図っております。

なお、災害時における市からの情報は、同報系防災行政無線や防災ラジオに限らず、スマートフォンアプリ、ヤフー防災速報、緊急速報メール、市ホームページ、フェイスブック、ツイッター、LINE、CATVのL字放送やテレビのデータ放送等、様々な情報伝達手段を用いて発信しており、多くの市民の皆様へ情報が届くように努めているところでございます。

次に、2点目のご質問、コミュニティ放送についてでございますが、コミュニティ放送とは各地区に設置した屋外拡声子局及び防災ラジオを活用し、市からの放送とは別に希望する地区において区民に対して放送するものでございます。

なお、コミュニティ放送を利用する場合には、安全協働課が作成しました同報無線を活用したコミュニティ放送に係るガイドラインに沿った地区ごとの放送規則を定めて、事前に市へ提出していただくこととしております。

ちなみにガイドラインでは、放送できる内容を行事の案内、区からのお知らせ等、地区内住民への周知事項としております。また、年に2回利用実績を報告していただいております。今までの実績を見ますと、地区防災訓練の案内や各地区における祭礼や廃品回収、一斉清

掃等の行事案内に利用いただいているところでございます。

次に、3点目のご質問、防災ラジオの販売実績についてでございますが、令和元年度は800台を販売し、令和2年度も800台を予定し、令和元年度の抽選漏れに伴う優先販売者及び申込み期間中の申込み者に対して販売を行っており、2月11日現在、671台の販売を予定しております。

なお、3月からは先着順による追加販売を実施する予定で、広報とこなめ3月号及び市ホームページ等で周知しております。